

アンチ・ドーピング教育啓発活動報告2023 Anti-doping educational activities report 2023

研究責任者：笠師久美子

北海道医療大学 薬学部

Chief of research group: Kumiko Kasashi

Faculty of Pharmaceutical Sciences Health Sciences University of Hokkaido

【要旨】

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」としていたが、「5類感染症」になり、世界全体での活動が活発化され、スポーツにおいても競技大会の再開や合宿、トレーニングが開始され、本来の姿に戻りつつある。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大により、対面で行っていた教育が中止されていたが、IT等の機器やデバイスにより、対面とウェビナーやオンラインを利用した教育も可能となった。

北海道スポーツ協会スポーツ科学委員会では、令和5年度国民体育大会（国体）派遣選手団結団式や国民スポーツ大会（国スポ）参加登録に合わせて、対面集合型ならびにオンライン講習やウェビナーによるアンチ・ドーピング講習を実施した。

令和5年度は3つの講習会（対面2件、オンライン1件）とオンデマンド配信を行い、受講後のアンケートを収集した。

アンケート結果について、対面講習では提出を任意としたことや会場で直接質問できる環境であったため、回答数が少なかった。オンデマンドによる録画配信におけるアンケートについては、令和5年度と同様に99名の受講者からアンケートを収集した。講義に対する評価は、大変わかりやすかった（5）～非常にわかりづらかった（1）の5段階リッカート尺度と、感想や要望を記載する自由記載とした。講義内容については平均値 4.0±1.1、中央値 4.0（3-5）であり、91.9%の受講者がある程度理解したと回答していた。また、自由記載では、禁止物質を含む具体的な製品に関する相談やドーピング検査、サプリメントに関するものなど、73件の質問と感想が寄せられた。

今後も実施環境や情報の迅速性を加味して、対面集合型研修やオンライン研修、オンデマンド配信との併用を検討しながら、アンチ・ドーピング教育を推進して行きたい。

Summary

From 8 May 2023, new coronavirus infectious diseases have been classified as 'new influenza and other infectious diseases (so-called category 2 equivalent)', but are now classified as 'category 5 infectious diseases', and are now active worldwide. The situation is returning to normal. On the other hand, the spread of new coronavirus infections has led to the cessation of face-to-face education, but IT and other equipment and devices have made it possible to provide education both face-to-face and via webinars and online.

The Sports Science Committee of the Hokkaido Sports Association conducted anti-doping training courses in face-to-face group sessions, online training courses and webinars in conjunction with the 2023 National Athletic Meet delegation formation ceremony and National Sports Meet participation registration.

In FY2023, three training courses (two face-to-face and one online) and an on-demand webinar were conducted and post-attendance questionnaires were collected.

The number of responses to the questionnaire was low for the face-to-face training course, possibly because the submission of the questionnaire was optional and the course was held in an environment where questions could be asked directly at the venue. As for the questionnaires for the on-demand recorded delivery, questionnaires were collected from 99 participants. The evaluation of the lecture was made on a five-point Likert scale from very easy to understand (5) to very difficult to understand (1), and a free response form to describe their impressions and requests. The mean and median scores for the lecture content were 4.0 ± 1.1 and 4.0 (3-5), respectively, with 91.9% of the participants indicating that they understood the lecture to some extent. In addition, 73 questions and impressions were received in the free-text section, including consultations on specific products containing banned substances, doping tests and supplements.

We would like to continue to promote anti-doping education by considering the use of face-to-face group training, online training and on-demand delivery, taking into account the implementation environment and the speed of information.

【はじめに】

北海道スポーツ協会スポーツ科学委員会で開催しているアンチ・ドーピング講習会については、令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、対面での活動が再開されたことから、対面集合型とオンライン、オンデマンド配信を使い分けて講習会を実施した。

特に令和5年度より国体（国スポ）出場選手ならびに関係者、未成年者の保護者等に対するアンチ・ドーピング学習が完全義務とされ、国体（国スポ）参加登録時に学習履歴を記したアンチ・ドーピング教育履歴カードの提出が義務化された。このような背景から、アンチ・ドーピング講習の受講状況や講習会後に実施したアンケート調査結果について報告する。

【方法】

アンチ・ドーピング教育の実施概要

講習会・研修会ならびに情報配信は、主に国体（国スポ）出場予定選手や関係者等に対するアンチ・ドーピング教育を目的に実施した。WEBによる録画配信は、アンチ・ドーピングの基礎知識に関する「基礎編」を2023年1月から2023年12月まで配信し、2024年禁止表国際基準の改定に合わせて改定した「基礎編改定版」を2024年1月から配信した。

また、禁止表国際基準については、改定が年度ではなく、年単位であることから、「2023年版」、「2024年版」として2つの録画を作成した。配信形態は事前に録画し、オンデマンド配信として北海道スポーツ協会ホームページからアクセス可能とした。視聴に際しては、講義内容のハンドアウトに加え、主に国体（国スポ）選手に必要とされる資料や関係書類等を北海道スポーツ協会ホームページからダウンロードできるように設定した。

講習会ならびに録画配信受講後はアンケートへの回答を依頼し、氏名やメールアドレスなど個人情報に繋がる項目は設けずに、年齢、性別、立場、所属先などの内容に留めた。アンケートの項目は講習会の理解度や理解しづらかった項目、自由記載とした。国体（国スポ）出場予定者等を対象としたアンケートについては、2022年度と2023年度で比較を行った。

調査対象講義

[対面講義]

令和5年9月27日（水）：令和5年度国民体育大会出場選手を中心としたアンチ・ドーピング研修会

令和5年7月29日（土）：令和5年度北海道スポーツ協会 スケート競技合宿講習会

[オンライン講義]

- 令和5年9月30日(土)：令和5年度北海道スポーツ協会 サッカー競技合宿講習会
 [オンデマンド配信] 国体(国スポ) 出場予定選手を含むすべての選手、指導者等を対象
 令和5年6月配信：(基礎編) 知っておきたい アンチ・ドーピング情報
 (2023年版) 確認しておきたい アンチ・ドーピング情報
 令和6年1月配信：(基礎編改定版) 知っておきたい アンチ・ドーピング情報
 (2024年版) 2024年禁止表国際基準改定点

調査方法・調査期間

講習会・研修会・録画配信の受講者状況ならびに受講後のアンケート調査結果を解析し、調査期間を令和5年6月1日～令和6年2月29日とした。

【結果】

講習会・研修会・録画配信実施結果

[対面講義]

研修会名：令和5年度国民体育大会出場選手を中心としたアンチ・ドーピング研修会

開催日程：令和5年9月27日(水)

開催場所：北海きたえーる大会議室

講義項目：ドーピングの定義、アスリートの役割と責務、ドーピング検査、ドーピング禁止物質と方法、治療
 使用特例(TUE：禁止物質や禁止方法を医療目的に使用する際の手続き)、情報を探す

受講者数：69名(選手・指導者・関係者)

アンケート回答数：10名(男：8、女：2)

[対面講義]

講習会名：令和5年度北海道スポーツ協会 スケート競技合宿講習会

開催日程：令和5年7月29日(土)

開催場所：帯広の森明治北海道十勝オーバル

講義項目：ドーピングの定義、アスリートの役割と責務、ドーピング検査、ドーピング禁止物質と方法、治療
 使用特例(TUE：禁止物質や禁止方法を医療目的に使用する際の手続き)、情報を探す

受講者数：78名(選手50名、指導者：8名、保護者：20名)

アンケート回答数：選手17名(男：10名、女：7名)

理解度：

リッカート尺度	5	4	3	2	1
研修会の内容はいかがでしたか？	7	8	2	0	0
	41.2%	47.0%	11.8%	11.1%	5.1%

*リッカート尺度：5(大変わかりやすかった) 4(わかりやすかった) 3(どちらとも言えない) 2(わかりづらかった)

1(とてもわかりづらかった)

図1-1 医療と薬に関する設問

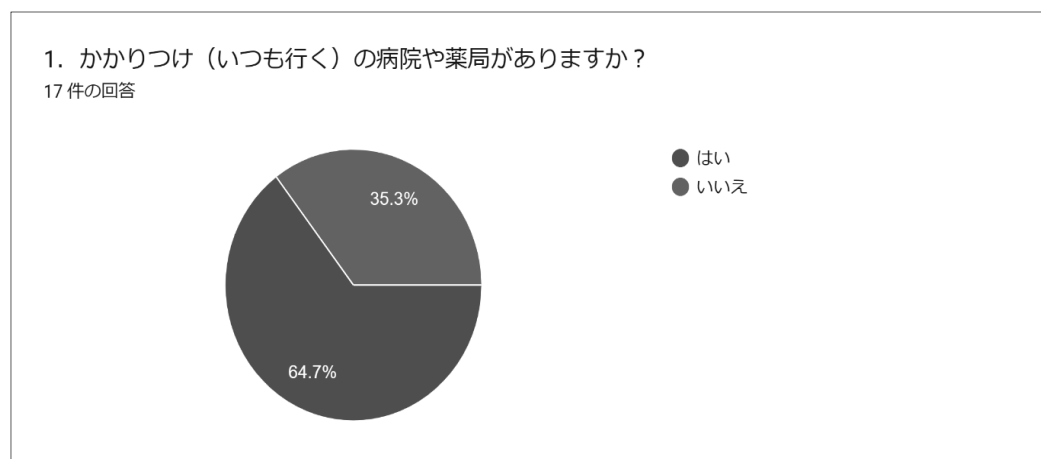
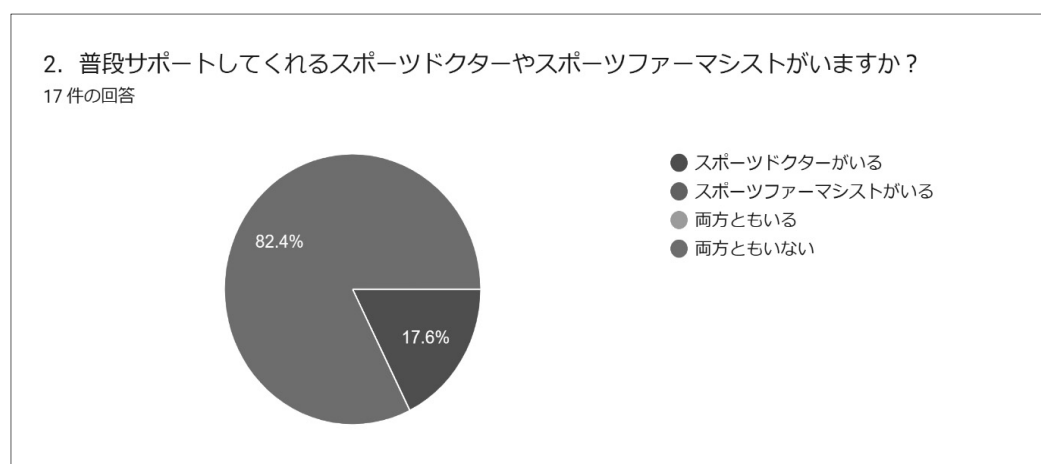


図1-2 医療と薬に関する設問



[オンライン講義]

講習会名：令和5年度 北海道スポーツ協会 サッカー競技合宿講習会

開催日程：令和5年9月30日（土）

開催様式：オンライン（ライブ）

講義項目：ドーピングの定義、アスリートの役割と責務、ドーピング検査、ドーピング禁止物質と方法、治療
使用特例（TUE）、情報を探す

受講者数：84名（選手：44名、指導者：15名、保護者：25名）

アンケート回答数：6名（男：5名、女：1名）

理解度：

リッカート尺度	5	4	3	2	1
研修会の内容はいかがでしたか？	5	1	0	0	0
	83.3%	16.7%	0%	0%	0%

*リッカート尺度：5（大変わかりやすかった） 4（わかりやすかった） 3（どちらとも言えない） 2（わかりづらかった）

1（とてもわかりづらかった）

[オンデマンド配信]

配信録画：「令和5年度国民体育大会出場選手を中心としたアンチ・ドーピング研修会」

- ① (基礎編) 知っておきたい アンチ・ドーピング情報
(2023年版) 確認しておきたい アンチ・ドーピング情報
- ② (基礎編改定版) 知っておきたい アンチ・ドーピング情報
(2024年版) 2024年禁止表国際基準改定点

配信期間：① (2023年版) 2023年6月1日～2023年12月31日

② (2024年版) 2024年1月1日～2024年2月29日

アクセス回数：①268回、②54回

アンケート回答数：99名

配信録画詳細：

<2023年配信>

【基本編】知っておきたい アンチ・ドーピング情報

講義項目：ドーピングの定義、アスリートの役割と責務、ドーピング検査、ドーピング禁止物質と方法、治療使用特例 (TUE)、情報を探す

提供資料：1. 研修会講義資料、2. 冊子「教えてください アンチ・ドーピングのこと」(北海道薬剤師会)、3. アンチ・ドーピングカード(北海道スポーツ協会)、4. ドーピングに関する問い合わせ用紙(北海道スポーツ協会)、5. ドーピング検査手順(日本アンチ・ドーピング機構：JADA)、6. 国民体育大会(国民スポーツ大会)ドーピング検査同意書(日本スポーツ協会：JSPO)、7. 国民体育大会における「治療使用特例(TUE)」(4種類)、8. アンチ・ドーピング使用可能薬リスト(2023年版、2024年版)(JSPO)、9. 国民体育大会(国民スポーツ大会)アンチ・ドーピング教育履歴確認カード、10. 世界アンチ・ドーピング規程2021改定ポイント

【2023年版】確認しておきたい アンチ・ドーピング情報

講義内容：2023年禁止表国際基準を中心とした内容

<2024年配信>

【基礎編改定版】知っておきたい アンチ・ドーピング情報

講義内容ならびに提供資料共に2023年を一部改定

【2024年版】2024年禁止表国際基準改定点

講義項目：世界アンチ・ドーピング規程2021、2022年禁止表国際基準変更点

提供資料：基本編の資料8を除くすべての資料と世界アンチ・ドーピング規程2021-改定ポイント- (JADA)

アンケート回答者数を日別値として、2022年度ならびに2023年度における本大会前後の推移を図2に、冬季国体前後の推移を図3に示した。また、回答者背景を表1に、研修会の内容に対する理解度を表2に記載した。

以下に2023年度の自由記載で質問のあった事例を例示した。質問に対する回答については、個別に対応が必要な場合はメールアドレスや氏名を記載するよう提示したが、個別対応を希望する事例がなかった。寄せられた質問に対する回答は、北海道スポーツ協会ホームページ内のアンチ・ドーピング教育に関する項目に、情報提供として掲載した。

(自由記載への質問例)

- ・ドーピング検査は事前に教えてもらえるのか？
- ・低用量ピルの服用は違反にあたってしまうのか？
- ・市販の疲労回復ドリンクは飲んでも大丈夫か？

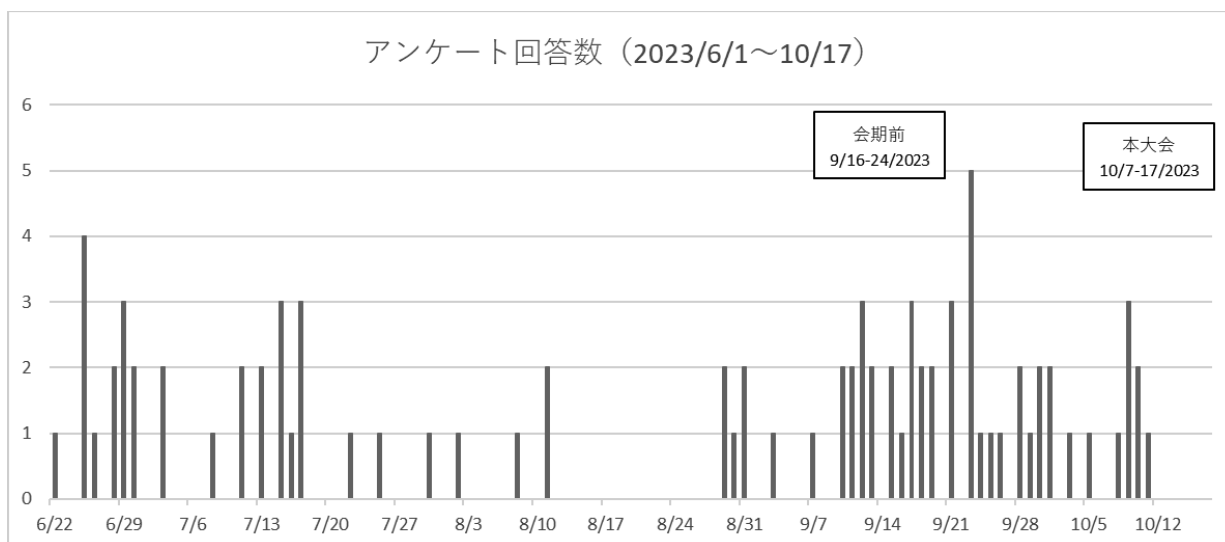
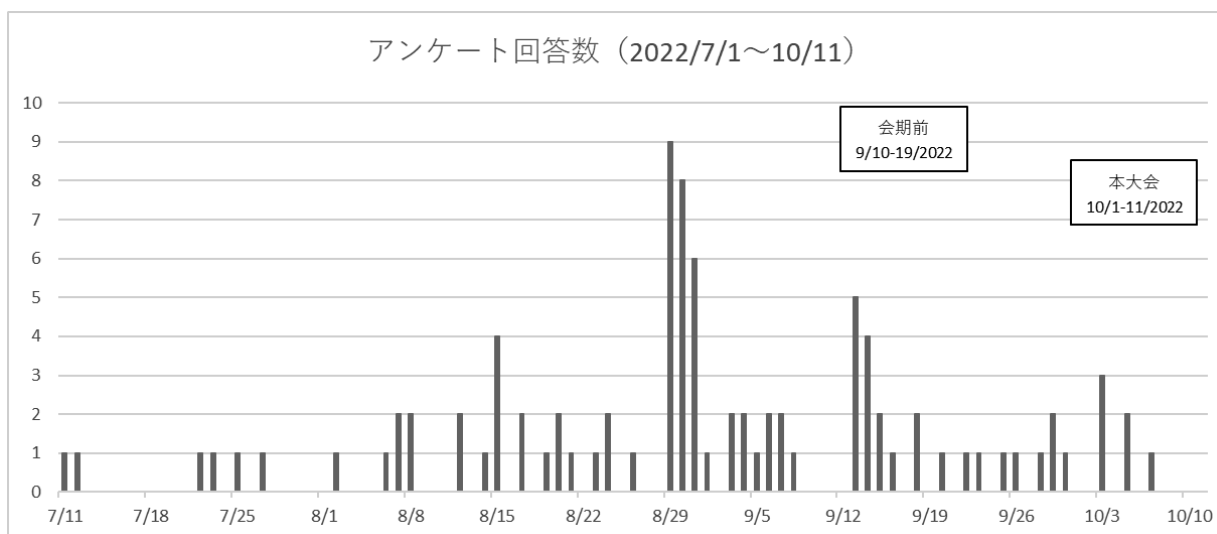


図2 本大会ならびに会期前大会までのアンケート回答数：2022年度と2023年度の比較

*2022年度：7/11-10/11, n=92, 2023年度：6/1-10/17, n=87

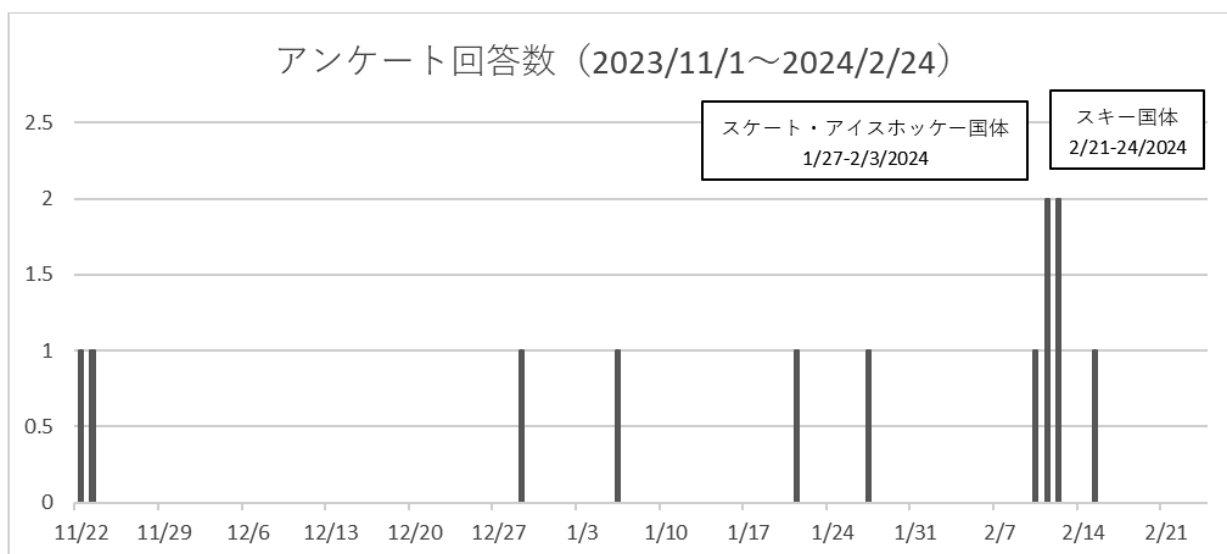
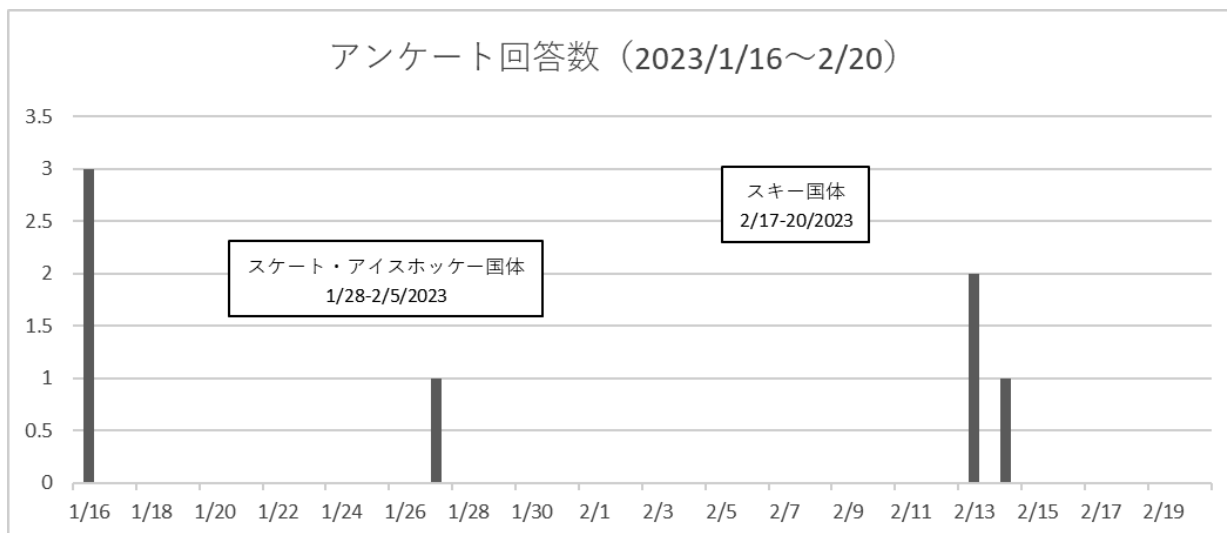


図3 冬季大会ならびに会期前大会までのアンケート回答数：2022年度と2023年度の比較
 2022年度：1/16-2/20, n=7, 2023年度：11/1-2/24, n=12

表 1 2022 年度ならびに 2023 年度動画講義アンケート回答者背景（両年度ともに n=99）

	設問	分類	2022 年度	2023 年度
1	年齢	18 歳未満	29	27
		18、19 歳	16	7
		20 代	22	29
		30 代	10	16
		40 代	11	8
		50 代	8	8
		60 代	2	4
		80 代	1	0
2	性別	男性	48	62
		女性	51	37
3	立場（重複回答あり）	北海道の国体（国スポ）選手	63	70
		北海道以外の国体選手	0	0
		その他の選手	13	7
		指導者	17	17
		医師	0	3
		薬剤師	0	1
		家族・関係者	5	7
		トレーナー北海道の監督	1	1
		監督	3	0
		その他	1	1

表 2. 録画講習の内容に対する理解度（n=99, 5-point リッカート尺度）

2022 年度

リッカート尺度	5	4	3	2	1		
設問	大変わかりやすかった	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりづらかった	非常にわかりづらかった	平均値	中央値
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(SD)	(IQR)
研修会の内容はいかがでしたか？	34	28	21	11	5	3.8	4.0
	34.3%	28.3%	21.8%	11.1%	5.1%	(1.2)	(3-5)

2023 年度

リッカート尺度	5	4	3	2	1		
	大変わか りやすか った	わかりや すかった	どちらと も言えな い	わかりづ らかった	非常にわ かりづら かった	平均値	中央値
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(SD)	(IQR)
研修会の内容はいかがでした か？	40	27	24	4	4	4.0	4.0
	40.4%	27.3%	24.2%	4.0%	4.0%	(1.1)	(3-5)

【考察】

国体向け向け講習会（対面）ならびにスケート競技（対面）、サッカー競技（オンライン）のいずれもアンケート回答数が少なかったが、オンデマンドでは99名の回答があったことから、時間や場所を限定せずに受講できる様式が好まれる傾向にあり、オンデマンド配信は今後も続ける必要があると考える。

動画視聴については、受講後アンケート回答による2022年度と2023年度の比較を行ったところ、2023年度は平均値4.0±1.1、中央値 4.0（3-5）であった。この結果は2022年度の調査（平均値 3.8±1.2、中央値 4.0（3-5））と比較して、理解度が高い結果となり、徐々に理解が進んでいるものとする。

また、動画視聴の時期については、アンケート回答数から見ると、2022年度は本大会ならびに冬季大会共に大会直前に集中する傾向があったが、2023年は早い時期に集中する形となっていた。これは2023年度（令和5年度）から国体（国スポ）参加条件としてアンチ・ドーピング教育受講が義務化され、その教育履歴は1年前から認められるという条件に伴い、早い時期から受講するという意識があったと推察する。

アンケート回答者は20代が29名と最多であり、18歳未満が27名と続いた。この結果は順位が逆転しているが、2022年度と同様の結果となった。受講者も2022年度と同様に選手の受講が70名と一番多く、受講に対する意識が保持されていた。

アンケートの具体的な設問としては、スケート競技（対面）の医療と薬に関する設問、「かかりつけの病院や薬局がありますか？」、「普段サポートしてくれるスポーツドクターやスポーツファーマシストがいますか？」を設けた。「かかりつけの病院や薬局がありますか？」に対しては、「はい」と答えた者が64.7%、「いいえ」と答えた者が35.3%、また「普段サポートしてくれるスポーツドクターやスポーツファーマシストがいますか？」という設問に対しては、「スポーツドクターがいる」が17.6%、「両方ともいない」が82.4%であったことから、今後、この設問の対象を拡大して、ドーピングとならないように適切に医療を受けられる体制の有無について調査することが必要と考える。

また、回答者数が少ないため、参考データではあるが、スケート（対面）、サッカー（オンライン）、国体（対面）の講義内容で一番理解しづらかった項目について尋ねたところ14件の回答があり、TUE申請が6件、Global Drug Reference Online（禁止物質の有無を検索できるサイト）が5件、禁止物質と方法が2件、ドーピング検査が1件であった。今後は、具体的な講義内容に関するアンケート調査も必要と考える。

アンケート回答については、任意としたため回答数が少なかったと考えられるが、今後のアンチ・ドーピング教育向上のためには、アンケート調査を通して受講者の理解度を把握し、受講者の疑問に答えるために、受講後のアンケートへの回答を必須とすることも必要と考える。

【まとめ】

4年ぶりに対面での講習会を開催することができ、受講者の反応や質問を直接受けられる環境の重要性をあらためて認識した。一方で、WEBによる講習会は場所を選ばずに実施でき、また、オンデマンド講習については受講者の時間や場所などの環境に合わせて実施できるメリットがあり、今後も対面とWEBの活用は必要であると考えます。

一方で、オンデマンド配信は受講者とのライブでのコミュニケーションが発生しないことから、学習意欲を低下させる可能性もある。2022年度ならびに2023年度のアンケート調査から、受講者の理解度が高まっていることがわかり、今後は、対面でのワークショップやセミナーなどと組み合わせたハイブリッド型の講習会の実施や、総括的な内容に留まらず、よりポイントを絞った内容での開催も有効と考える。その結果、学習者が講義を聞くだけでなく、自らが考え行動することでクリーンアスリートとして行動変容を起こすきっかけとなることを期待する。